

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	270201981		
法人名	社会福祉法人七峰会		
事業所名	グループホームわかば		
所在地 (電話番号)	〒036-8255 青森県弘前市若葉2丁目15 (電話) 0172-37-1176		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成 20年 11月 7日	評価確定日	平成 20年 12月 14日

【情報提供票より】(平成20年9月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 17年 5月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤 7人, 非常勤 6人, 常勤換算	12.24人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	2階建ての 1階 ~ 2階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	7,500 円	その他の経費(月額)	9,000 円
敷金	有() 円 (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円 (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり 1,080 円			

(4) 利用者の概要(9月20日現在)

利用者人数	18 名	男性 3 名	女性 15 名
要介護1	5 名	要介護2	5 名
要介護3	5 名	要介護4	3 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢 平均	83.7 歳	最低	71 歳
		最高	90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ナルミ医院、小泉歯科
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは新興住宅地の中にあり、小高い丘に立てられている。岩木山やりんご公園が一望でき、屋上からの眺めもすばらしく、また商店、病院も近くとても便利な立地条件にある。デイサービスも併設され自然な形での利用者同士の交流ができています。知的・障害者の通所の作業所も隣接し、そこで作られたパンをグループホームでも週一回利用するなど、良好な関係が作られている。管理者を中心に職員のチームワークも良く、入居者、家族、地域との交流も盛んで、地域に密着したホームとなっている。常に向上心を持ち、職員全員がサービスの質の向上に努めている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価での改善項目はなかったが、それに甘んじることなく、全職員で自己評価し、意見を出し合ってサービスの質の向上に努めている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員で話し合い、意見を出し合ってサービスの確認をしたり、運営推進会議を通して、地域の方々の意見を聞いたり、利用者、家族からは日ごろから要望等を伺うなどサービスの質の向上に取り組まれている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に一回定期的に開催され、本人、家族、民生委員、包括支援センター、市職員、町内会長さんの参加をいただいている。このことから、町内の夏祭りに、職員がお手伝いに行ったり、夏にはホームの屋上に、地域の方が花火見物に使用したり、前庭は通学や散歩コースに使われるなど、地域との交流が活性化されている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)
	家族の面会時に入居者の様子を伝えたり、要望を伺ったり、お便りや電話、ファックスなど、それぞれの家族の希望に応じて連絡をされている。出納帳の確認なども定期的に家族にいただいています。今後も信頼関係の継続と、何でも言い合える雰囲気作りに努めて頂けることを期待したい。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に入っていて、併設デイサービスセンター長が、町内会の副会長をしていることや、運営推進会議での地域からの意見や町内会長さんが毎日のように、訪ねてきてくれるため、お互いの行事を通して地域交流が活発に行われているので、今後も継続されることを期待したい。

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者の尊厳を守り、地域で安心、安全な生活が送れるように職員が相談して決めた理念が掲げられている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	新人職員には理念から説明するようにしている、共有スペースにはさりげなく理念が掲げられ、全職員が理念を把握している。		
2. 地域との支えあい					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	センター所長が町内会副会長を努めていて隣近所との関係も良好である。町内会長は毎日のようにホームを訪問され交流されている。夏には町内の方が屋上を利用し花火を見に来たり、ホームの前庭は通学路、散歩コースに日常的に使われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全職員で話し合って記入することにより実施する意義を理解できている。評価結果を受けて意見を出し合い改善に取り組んでいる。		
5	6	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年間計画を作成しご本人、ご家族、民生委員、包括支援センター等の参加により2ヶ月に一回定期的に開催されている。サービス評価への取り組み状況についての報告、話し合いを持ちサービスの質の向上に努めている。又推進会議を利用し水路清掃、試食会の開催、町会の夏祭りの手伝い等を行い交流を深めている。		
6	7	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者とは必要に応じていつでも行き来ができ、関係も良好である。		
7	8	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護事業、成年後見制度を利用している方もおり、制度について理解できるように学ぶ機会を持ち、必要時はいつでも活用できるように支援している。		
8	9	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、職員同士が常に意識することや、言い合える関係を作るようにしたり、職員が言いにくい事は管理者が代わって言うことにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居時に出来る事、出来ない事の説明を十分に行い不安、疑問点を尋ね、理解、納得を得てから契約を行っている。</p>		
10	12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>定期的にわかば便り、きじこ通信を通じて報告している。面会時には受診の事、出納帳の確認を実施しており遠方の方には電話、ファックスを利用し報告、出納帳はコピーを送付し個々に合わせた報告を行っている。</p>		
11	13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族とは日頃からいつでも話が出来る良好な関係にある為、意見の吸い上げを行っている。不満、苦情になる前に対応するように努めている。</p>		
12	16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>法人の方針としてグループホーム職員は異動しないようにしている。法人内よりの異動は最小限にし、利用者には事情をわかりやすく説明、内部異動時は時々顔を出すようにしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>計画的に年間の予定表を作り、自分で行きたい研修の起案をあげ、研修に参加できる機会を持っている。又認知症と医務による勉強会を交互に行い、質の向上に努めている。</p>		
14	18	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>併設デイサービス利用者が入居されたグループホームに出向いたり、相互に訪問しあう関係づくりが出来ている。同法人のグループホーム間相互に訪問し合い、サービスの質を向上させていく取り組みを行っている。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前の状況をご本人、ご家族より把握し自分で使用していた農機具、野菜づくりの支柱を持参したりし徐々に馴染めるように家族等と相談しながら工夫している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は畑仕事、花栽培、裁縫等利用者から学ぶ事も多く、共同作業をする事で支え合う関係ができ、喜怒哀楽を共にしている。</p>		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中からご本人、ご家族の希望、意向の把握に努め、ご本人、ご家族から聞き取りした事を書き込みし、昼のミーティングで職員が話し合いを持って本人本位のケアプランを作成している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人がより良く生活できるように、ご家族、必要関係者が積極的に意見を出し合い計画を立て、再度確認しながら計画を作成している。		
19	34	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画期間内の見直しを行うとともに、状況に変化が起きた時はご本人、ご家族と必要関係者で話し合いし、状況に即したケアプラン作成をしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院時の付き添い、ご本人希望の外出支援がなされている。又遠方から来られたご家族とご本人が一緒の部屋に泊まれるように配慮されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医や、希望する医療機関に自由に受診できるように支援している。		
22	44	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化した時の事を話し合いしている。医療行為についての説明、緊急時の搬送、出来る事、出来ない事の説明を行い、看取りの希望がある場合は主治医の協力を話し合ってから全員で方針を共有している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ケース記録等は事務室の専用のキャビネットに保管している。排泄時の失敗は他に知られないように配慮、広報誌も地域には名前を出さないように内用、外用に分けて作っている。		
24	49	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、喜怒哀楽に気をつけ、生活にメリハリをつけた生活支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>基本的には栄養士がメニューを考えているが収穫した野菜を利用したり、利用者と一緒に買い出しをしたり、メニューも相談している。又毎昼食は選択食となっておりそれぞれ好きなものを選んでいる。準備、後片付けも役割分担しそれぞれ得意分野を行っている。</p>		
26	54	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>ほぼ毎日入浴は実施している。時間、順番に関しては、本人の希望を取り入れ、気持ちよく入浴できるように支援している。又安全、安楽に入浴できるように手すりが工夫されていた。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>一人ひとりの得意分野を職員が見極め、生活の中で役割を自発的に行うよう促している。負担にならないように職員と一緒にすることも。一人ひとり違う野菜を作ることでお互いを尊重しあい、畑作りを通じてユニット間の交流も見られている。</p>		
28	58	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>週1回個別に外出支援を行っている。戸外の散歩、買い物等に出かけられるように支援している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを行うための勉強会を開催、禁止となる具体的な行為を理解している。マニュアルの作成も行われ、拘束しないケアに取り組んでいる。		
30	63	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関、非常口にも鍵はかけていない。職員の見守りの中でテラス、屋上にも自由に出入りができ、鍵を掛けない生活を支援している。		
31	68	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間を想定し2ヶ月に一回通報、消火器の使い方等の訓練を行っている。地域にも避難訓練の回覧をして参加を働きかけたり緊急用の保存食の備蓄も行っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養士が作成するほか、毎食は選択食になっており、ご本人の好みにより選んで食事量を確保できるよう、バランスのとれた献立表が作成されている。又食事量、水分量の少ない利用者にはチェック表を作成しエンシュア、ラコールを提供するなど、その人の状態、習慣に応じた支援をしている。		
33	75	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	絵付きのわかりやすい感染症ハンドブック、マニュアルが整備され勉強会を開催している。又家庭的な面にも配慮しながら玄関入り口に消毒、うがい器の設置をして感染予防に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
いん					
(1)居心地のよい環境づくり					
34	78	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースには利用者手作りのこぎん刺しのタペストリーが飾られ、手作りの作品が置かれている。トイレの戸には大きな音がしないようにゴムをとりつけたり工夫がされている。又屋上からすばらしい風景が一望でき日光浴を楽しむことが出来る。共有スペースでの職員、利用者の会話も静かで落ちついた生活が感じられた。		
35	80	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の慣れ親しんだ畳にしたり、使い慣れた家具を配置し自宅さながらの部屋を再現、ご本人が居心地よく生活できる工夫がなされている。		

 は、重点項目。